

令和6年度

租税教室実践発表会資料



女川町立女川小学校

教諭 川井 麻悠子

1 はじめに

女川町立女川小学校は、東日本大震災後、平成 25 年 4 月 1 日に、女川第一小学校、女川第二小学校、女川第四小学校を女川第二小学校校舎で 1 つに再編・統合して女川小学校として開校した。その後かさ上げ造成された女川の中心地に新校舎が建てられ、小学校と中学校が施設一体型小中一貫教育学校として供用開始した。女川町は、北上山地と太平洋が交わるリアス式海岸があり、天然の良港を形成し、牡蠣や帆立貝、銀鮭などの養殖漁業が盛んで、金華山沖漁場が近いことから、卸売市場では、暖流・寒流の豊富な魚種が多く取り扱われている。中でもサンマの水揚げは全国でも有数であり、大漁を祈る「サンマ de サンバ」という曲(女川体操)を地域の祭りや運動会で踊っている。



女川小学校では、教育目標を「命輝かせて女川を愛し、志をもって未来を創る、心豊かでたくましい児童生徒の育成」とし、目指す児童像として『勉強いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 真心いっぱい』を合言葉に児童一人一人が輝く学校づくりを推進している。また、女川町が定めた「女川っ子仕草」を毎月の生活目標とし、振り返りを行い、定着を図っている。

本校は、施設一体型小中一貫教育学校として、異年齢集団の活動を通して、社会性や豊かな人間性を育むことができるような小中合同縦割り班活動などを取り入れている。

2 児童の実態

本学級は、男子 12 名、女子 20 名、計 32 名で構成されている。単学級ということもあり、互いを理解し合い、仲間と支え合いながら様々な活動に取り組む姿が見られる。また、総合的な学習の時間で女川町の魅力を調べる学習などを行っていることもあり、地元を愛する気持ちも育ってきている。

今回、女川町の復興と税金に関する授業を行うにあたり、児童が女川町の復興にどのくらい税金が使われ、どのようなことに使われたのかを理解しているのか把握するためにアンケート調査を行った。結果は以下のとおりである。

1 女川を復興させるためにたくさんの税金が使われました。どんなことに使われたと思いますか。	・お店を建てる ・病院の修繕 ・学校を建てる ・公園を作る ・駅を再築する ・公共施設を建てる ・町に彩りをもどす - など
2 みんながよく遊んでいるマッシュパーク（公園）を作るためにどのくらい税金がかかっていると思いますか？	・10万円～100万円未満（2名） ・100万円～1000万円未満（7名） ・1000万円～1億円未満（13名） ・1億円～10億円未満（10名）

社会科の授業で東日本大震災が発生した時の市や県、国の取り組みなどを学習したこともあり、どのようなことに税金が使われているのか理解している児童が多く見られた。また、施設を作るためにどのくらいの税金がかかるのかも真剣に見当をつけて考える児童が多く、税金に関する興味が高まっていることを感じた。

税金に対する興味は高まっているものの、実際の自分たちの生活と結び付けて考えることはまだできていないので、自分たちの住む女川町という身近な話題から多くの税が使われていることを理解し、税金の大切さに気付くことができるように指導していきたい。

3 指導に当たって

指導に当たり、以下のような手立てを講じる。

（1）税に関する基礎的・基本的な知識の定着を図る

社会科の「わたしたちの生活と政治」の中で扱った、子育て支援の願いを実現する政治と、震災復興の願いを実現する政治から税金の使い道や、国民の願いを実現させるためにどのようなことに税金が使われているかを復習しながら取り組ませることで知識の定着を図っていく。

（2）税に関する興味関心を高める

女川町に実際にある公園や、施設などを取り上げることによって身近な所で税が使われていることを実感できるようにする。また、女川町教育委員会と連携し、具体的な金額なども提示することで、児童の興味関心を高められるようにする。

（3）税の大切さに触れ、納税について考える

女川町の未来を考えていく中で、住みよい町づくりには国や県からの補助金なども使われていることに触れ、税金は自分たちの生活や社会を支える大切なものであることに気付くことができるようにする。

4 指導計画

時	学習内容（総合的な学習の時間 全4時間）
1	○女川町の復興と税 ・女川町の復興にどのくらいの税金がかかったのかを知る。 ・新しく施設を建てるためにはどのような手順が必要なのかを知る。
2	○女川町の未来を考えよう ・女川をよりよい町にするにはどんな施設があるとよいか考える。 ・個人で考えたことを基に、グループで未来の女川について想像し、よりよい女川にするためにはどんな施設があるとよいか話し合いをする。
3	○計画書を作ろう ・計画書を実際に見て、自分たちの願いを伝えるために具体的にどんな施設にすべきか考える。 ・計画書を実際に作る活動を通して、税金の流れなどを確認する。 ・計画書のプレゼンテーションをするためにプレゼンテーションの計画を立てる。
4	○税とわたしたち ・プレゼンテーション発表を行う。 ・税金と自分たちの暮らしの結びつきを知り、納税の大切さについて考える。

5 実践

（１）税に関する基礎的・基本的な知識の定着を図る

税金の集め方や種類を確認し、どんなことに税金がかかるのかを具体例を交えながら学習した。また、女川町の復興の様子を振り返りながら復興特別税について知ることによって、より税金が自分たちの生活と関わりが深いことを認識することができた。税の種類をワークシートに書いたり、どんなことに使われているかまとめたりすることで基礎的・基本的な知識の定着を図ることができた。児童の授業の感想にも「女川町は、税金でたくさん助けられていることが分かった。」「今まで消費税などが上がって嫌だなと思っていたけど、復興などに使われていることが分かり、税金の大切さが分かった。」と書かれていた。身近な税について考えることが、税の必要性について考える良い機会になった。



(2) 税に関する興味関心を高める

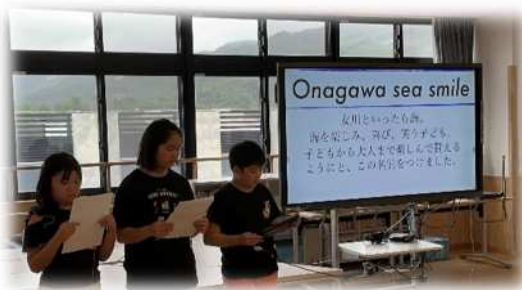
児童が毎日通う学校や普段遊んでいる公園の建設費を予想し、実際にかかった費用を知らせた。児童にとって身近な場所である学校と公園を取り上げることで、税金の金額に対する驚きを引き出すことができた。また、自分たちが使っている机や椅子、教科書などにも税金が使われていることを確認し、税金を身近に感じる事ができた。



更に、児童の身近な税である消費税について意見を交換し、自分たちが納めている税金の使い道を考えた。税に対する興味を一層高め、納税の重要性の理解や関心を高めることにつながった。

(3) 税の大切さに触れ、納税について考える

自分たちが住む女川町をより住みやすい町にするために町民の願いをグループで話し合い、プレゼンテーション発表会を行った。町民の願いを実現するためにどんな施設が必要か、どのくらい予算が掛かるかなどを具体的に話し合い、計画書を作成した。計画書の作成に当たり、社会の教科書の『子育て支援の願いを実現する政治』で取り上げられているさいたま市の子ども家庭総合センター「あいぱれっと」について確認した。市民の願いを実現していく過程を教科書で確認し、より現実的に考えられるように児童の計画書作成も、その流れに沿って行った。



実際の流れに沿って計画書から考えることで一つの施設を作るために多くの時間とお金がかかることを知り、公共の施設を大切に使う気持ちを持つことができた。また、自分たちが不自由なく生活できるように税金が使われていることを知り、納税の大切さを実感することができた。児童の感想からも「大人になったらみんなの幸せのために税金をしっかりと納めたいと思う。」「税金がどんなことに使われているかしっかり勉強することで税金の大切さを理解することができた。」など、税の大切さに気付き、納税について考える良い機会になったことが感じられた。

なったらみんなの幸せのために税金をしっかりと納めたいと思う。」「税金がどんなことに使われているかしっかり勉強することで税金の大切さを理解することができた。」など、税の大切さに気付き、納税について考える良い機会になったことが感じられた。

プレゼンテーションの様子



計画書



▲4時間という少ない時数での指導であったため、税の種類などを絞って指導することになった。
 今後は指導計画を見直し、租税教育の時数の確保をしっかりと行っていきたい。